



# 豊高だより

平成27年10月30日発行 通算37号  
埼玉県立豊岡高等学校

題字：金子 絵美（書道部 1年）

## 巻頭言

校長 内田一雄

### 全校集会の講話から

1 スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、何をするにも快適に過ごせる季節になりました。高校生活を益々充実させてほしいと思います。

2 四つの言葉を紹介します。

#### ①「No Pain No Gain」

ラグビーのワールドカップでの日本チームの快進撃が注目されました。主将のリーチ・マイケルさんは高校時代を札幌山の手高校で過ごしましたが、その時の部のスローガンが「No Pain No Gain」（苦労なくして、成功なし）だったそうです。今三年次生は進学や就職といった高校卒業後の進路実現に向けての本格的な戦いに突入しています。是非とも苦労しながら栄冠を勝ち得てほしいと願っています。

#### ②「自分たちの中にある『鬼』を引き出せ」

ラグビー日本チームのヘッドコーチであるエディ・ジョーンズさんが選手たちにハッパをかけた時の言葉です。本気になること、真剣になることの大切さを例えた言葉だと思います。進路開拓を完遂するときに必要な

ことだと思えます。

#### ③「高い志を持ち、一生懸命やることで幸運が転がり込んでくる」。

日本人お二人がノーベル賞を受賞しました。宇宙の根源に迫る埼玉県出身の梶田さんの研究も、感染症予防や治療の薬を開発した大村さんの研究もともに素晴らしいのですが、大村さんが新聞のインタビューに答えて言った言葉です。特に、「高い志」に注目して欲しいと思います。別の言い方をしますと「君に夢はありますか?」ということにもなるでしょう。どうぞ大きな夢を抱いてください。自分一人が大儲けをしようというような利己的な夢ではなく、世界を人類を救おう、発展させようという大きな夢を抱いてください。そうすればきっと幸せな人生を過ごせると思えます。

#### ④「感動する人間になってほしい」

島崎研一さんが書かれた『人生夢物語 最終章を生きる』という本の中にある詩を紹介します。お孫さんたちに願う、「感動する人間になつてほしい」という題名の詩です。

「きらめく星を見て 煌煌と照らす月を見て そびえる山を見て 流れゆく河を見て あでやかな花を見て 草木の匂いを嗅ぎ美しい虫の音を聞き 小鳥のさえずりを聴き

感動する人間になってほしい

出世も名誉もいらぬから 金持ちにならなくてもいいから 感動する人間になってほしい

そよ風に触れて 小雨に濡れて 名曲を聴き 力作の絵画を見て 人の心の優しさと温かさを知って 感動する人間になってほしい

3 結びに。人類・社会のために貢献する高い志を養いながら、一流の知性と豊かな感性を備えた人に育つて行ってください。そして、そのために今何をすべきか、逆算しながら計画を立て、一日一日を大切に過ごしてください。必要以上、スマホなどにかかわっている時間がない時間などないはずですが、余計な時間をそぎ落として、部活動や教科の勉強に励んでください。

バトン部が中間考査のど真ん中の24日(土)、千葉市で開催される関東大会に埼玉県代表として出場し銀賞に輝きました。

時間のやりくりに必死になることで、神経が研ぎ澄まされてくるのだと思います。そうすると、隠れていた力が出て来るのだと思います。まさに、これが、「自分たちの中にある『鬼』を引き出す」ということだと考えますが、皆さんはどう思いますか?



※バトン部は、関東大会において、見事銀賞を受賞しました。

埼玉県高P連西部支部研修会で出会った言葉から

●創立一三一年目の福島県立安積高校(35単位)の学校案内より

『生徒会長と応援団長のことば』

安積高校には、勉学や部活動、社会的な活動に於いて、時には仲間と協力し、時には仲間と競争し、共に同じ目標の実現を目指して互いに切磋琢磨するかつこいい人がいます。安積高校では生半可な覚悟は通用しない。わが校では、開拓者精神、質実剛健、文武両道を掲げている。困難に負けず、敢然と立ち向かう者が真の安高生である。安高生は、何事にも全力で取り組み、友と切磋琢磨して向上心を忘れないからである。

『卒業生のことば』

毎日部活の後に授業の予習復

習をするのは大変ですし、受験期まで部活動が続くところもあります。文武両道が続くことで得られるものは忍耐力であり集中力であり・・・。勉強や部活動に於いて高いレベルでお互いに切磋琢磨することが出来ます。安積高校生の言葉に共通している要素を抽出してみてください。

●江戸時代約三〇〇あった藩校の中でも最高峰の一つ「日新館」の教えから

『六行(模範となる人物の六つの行い)から三つ』

一、大いに、父や母に孝行する者

四、大いに仲間をつくり、お互いに仲よくするが、つきあいのけじめを忘れない者

五、友人から信頼され、自分が仕事を任せられ、しかもその仕事を長いこと担当できる者

「ならぬことはならぬ」で有名な「仕の掟」で幼少から育てられた会津藩の真骨頂が出ていると言えるでしょう。各条文に見合う具体的な行動はどのような行動であるのか考えてみると実践的な警句となるのではないのでしょうか。

●平成五年に日本で最初のコンピュータ理工学専門の大学として開学した福島県立会津大学の学校案内より

間口は狭いが奥行きが広い学部。24時間使えるコンピュータ設備。休憩仮眠室も24時間対応。コンピュータはすべて三年ごとに更新。学生数は約一〇〇〇人。内女子が一割強、リケジョ募集中。卒論は英文で記述。講師一〇〇人中、外国人講師が四割。恵まれた学習環境です。将来性の高い超お薦めの公立大学です。

◆2年次生は、来る10月31日(土)に、恒例の「8時間耐久学習会」を実施します。勉強の基本は自学です。それを、先ずは、仲間と切磋琢磨し合いながら体で掴み取るための学習会です。奮って参加してください。

各年次より

『計画を立てよう』

一年次主任 橋本克洋

部活動では、三年生が引退し、新しい体制で臨んだ大会が終わろうとしている時期です。実力を十分に発揮し、悔いを残すことなく終わることができたでしょうか。ところで、次の大会はいつでしょうか。種目等によって違いはありますが、早くても四月の中旬以降になります。この半年間は、「〇〇大会に

向けて」という目標の設定が難しい時期でもあります。

しかし、大会期間中とは違い目の先のことにとらわれずに練習できる時期でもあります。大会期間中にはなかなかできない基本練習やトレーニングに時間を割くことができます。そして、この基本やトレーニングの繰り返しは単調で辛いものですが、ここでの取り組みの良し悪しが、次の大会に向けて大変重要なものになります。

さて、この部活動の状況を進路に置き換えて考えると、現在の一年次生の状況に当てはまりませんか。入学試験を突破した喜びや興奮はやや冷め、次の入学試験は先で、そこを目標にして頑張るにはなかなか難しく、学習や進路に関する意欲が下がっている時期ではありませんか。そして、まだ時間的に余裕のある今だからできることがあり、それが今後の進路に重要であることも当てはまりませんか。

まだ時間があるからと油断することなく、時間がある今だからこぞできること、しなければならぬことがあるはずですよ。それが何かをよく考え、計画を立ててじっくりと取り組みましょう。そして、約二年二ヵ月後の本番のときに悔いを残さないようにしましょう。あつという間の三年間ですから。

## 『高校生活の折り返し地点を迎えて』

二年次主任 天海雅充

二年次生の高校生活も折り返し地点を迎え、進路実現に向けて本格的に勉強に取り組みなければならぬ時期になりました。先日、一・二年次合同のベネッセのスタディサポートの返却会で進路指導主事の松村先生から結果分析とアドバイスがありました。二年次生の結果を見て心配されるのは、一年次と同様に、家庭学習の時間が平日・休日ともに不足し、十分な時間を確保できていないことです。そして、松村先生の話にもありました。高校生から家庭学習の時間を奪っているものはスマホの使用です。スマホの使用時間を減らし、家庭学習の時間を増やさなければ学力の向上は望めません。「手にはスマホではなく本や筆記用具を持つこと」を意識し、家庭学習の時間を増やしましょう。スマホを手放せない人は本校1号館2F廊下に足を運んでみてください。そこには今春の卒業生から寄贈された個人用学習机が並んでいます。早朝や放課後に個人用学習机を活用し、寸暇を惜しんで黙々と勉強している本校生の姿があります。まさに「受験生」の姿で

す。その姿を見れば「自分も頑張らなければ」「時間を有効に使わなければ」と痛感させられると思います。進路実現に向けてそろそろ本気になって勉強に取り組んでください。

さて、二年次では11月11日(水)出発の沖繩修学旅行に向けて準備を進めているところです。しおりも出来上がり、本日は年次集会でしおりの説明がありました。荷物の発送が11月7日(土)です。今週末には荷造りの準備をしなければなりません。

今回は沖繩本島に三泊し、沖繩滞在中には、「平和学習」「自然(マリ)体験」「民家宿泊体験」「班別行動」などがあります。普段の高校生活では得られない体験ができると思います。そして、集団生活を通じて、仲間との親睦が深まり、絆が強まることを願っています。

## 『卒業まで』

三年次主任 井口政則

過日の年次集会から、もう半月ほど経ちました。卒業式まであと約百三十日、そのうちで登校する日はわずかに五十日ばかりです。

ほぼ進路の目途がついた人にとっ

ては、残りの日々はその進路への準備期間です。高校生としての知識や教養を身につけるべく、授業にしっかりと取り組むとともに、進路先に関わる内容の新書などを読みましょう。特に大学に進学する者は、この期間にしっかりと勉強をしておかないと、入学した途端に一般受験で入学した学生に後れを取ってしまうことになります。くれぐれも気を抜かないように。

一般受験の生徒は、いよいよ胸突き八丁といったところです。模試の結果が思わしくないことから自信を失ったり、志望先変更などの迷いが生じたりしている人も多いことでしょう。しかし、大部分の受験生、特に現役生は似たような状況にあるわけですから、いたずらに慌てたり、焦ったりすることはありません。冷静に現状を分析し、これから何ができるか、何をすべきかを考えましょう。自信のない人や模試の結果が思わしくない人ほど、好きな科目や得意な科目の勉強に目を向けがちですが、今後の学力の「伸びしろ」は苦手科目の方にこそあるものです。「好きなこと」や「得意なこと」を頑張れるというのは当たり前のことであって、「嫌いなこと」や「苦手なこと」に歯を食いしばって頑張ることが合格への近道であり、そういう経験が今後の人生に生きていくものです。

## 教務部より

### 『校歌を歌おう』

教務主任 橋本 浩

日本には美しい四季がある、その中でも秋が好きです。特に十月下旬から11月にかけて、気温が下がり多少の肌寒さは感じるが、空気が澄んで遠くの山々の稜線と空の青のコントラストがはつきりして、空と大地が交わるのが実感できる景色、そして、稜線に太陽が沈む夕暮れは何とも言えない感動を覚えます。その光景の中で思い浮かぶのは「霊峰、遠く消えゆきて、夕陽うつる入間川、古岸に人の影はなく・・・」のフレーズです。この詩から察して入間川に架かる豊水橋辺りからの光景を詩にしたものではないかと勝手に解釈しています。諸先輩方が歌い続け、伝えてきた校歌である、これからも大切にしていきたいと考えています。先輩方も、豊岡のこの地で学び、学んだ成果を「評価」として受けてきた訳である、定期考査ももちろんです。生徒の皆さんは先日、

中間考査があり、それに向けてテスト対策の勉強をしてきたことと思ひます。中間考査が終わり、一息ついている人もいると思ひ、帰つてきたテストに一喜一憂している人もいると思ひますが、その場だけで喜びや悔しさを忘れず、もつと長いスパンで考えてほしいと思ひます。つまり、一年間の結果は三月に出ます、一学期、二学期、三学期の合計が年度末に結果として出てくるのです。定期考査が成績を決定する上で大きなウェイトを占めるのは言うまでもないことですが、その他に日々の授業で課される提出物、レポート、授業への取り組みなど、評価は多岐に亘つており、それらをきちんとこなすことが、みなさんの実力を付ける上でも大切なことであり、一年間の評価を上げることに関わりま

す。

今回の試験で良かった人は、これを弾みにさらなる努力を続けて欲しいものです。また、今回の中間考査で失敗した人も定期考査は、あと二回あります、落胆ばかりして

いないで前を向いて挑戦してもらいたいと思ひます。ただし「根拠のない自信」は厳禁です。今回の失敗の原因を細かく分析し、次回に失敗しないよう計画を立てて実行してください。失敗は誰しもするし、失敗を恐れては何もでき

ません、ただ同じ失敗を繰り返す者は愚か者と言わざるを得ません。皆さんはどちらになるか、それは失敗した後の対応次第です。

さて、年間の成績を考える上で成績のメカニズムを知ることは重要です。孫子の兵法にあるように「敵を知り、己を知らば、百戦危うからず……」です。次のことをよく理解し、また自分の今の実力を正確にはかり、自分のやるべきことを考えて欲しいと思ひます。

学年末の評定が5段階で「1」となった場合は単位修得不認定となります。ただし2科目までは追認考査が受けられます。また、二学期末で成績が振るわない生徒は、保護者同席で督励指導を行います。

さあ、自分が立てた目標が達成できるよう、そして三月には胸を張つて大きな声で校歌が歌えるよう、今日を大切に、明日に向かって頑張りましょう。

豊岡高校校歌

霊峰遠く消えぬ山  
 夕陽うつる入間川  
 古岸に人の影はなく  
 晩鐘風に響くとき  
 出藍の誉胸に湧く  
 生徒の窓に灯は一つ  
 燃ゆる心の喜びを  
 迎ふか空に二十日月

進路指導部より

『高校大学接続と入試改革』

進路指導主事 松村重宏

平成27年度中学校一年生から大学入試が全面的に変わります。センター試験の廃止や、個別試験の実施内容の大幅変更、現在のAO・推薦・一般などの入試の区分の廃止など、根本的に入試が変わります。この入試改革に先立ち、大学にも改革が求められています。こうした流れは国際的に高い水準の教育を目指しているという流れの一環です。

国際化の波はすぐそこまでやってきています。スーパーグローバル大学という言葉が耳にされた方も多いいと思います。「大学改革」と「国際化」を中心に日本の大学をリードしていく37の大学です。国際化、特に英語に関しては入試に大きく関わってきています。英語は四つの技能(聞く・読む・話す・書く)をバランスよく学ぶことが大切であると言われておりますが、今までの入試ではこのうち読むことと聞くことを中心に取り組みされてきました。今後、今までの入試では取組みが難しくなった話す・書くが取り入れられ

てきます。もうすでにこうした四技能を入試に導入している大学も多くありますが、これをTOEFLやGTEC、TEAP、英検といった外部検定試験により実現しています。ひとつの例ですが、青山学院大学の一般入試C日程ではTEAP一定スコア以上が出願条件になっていきます。つまり、この入試では外部検定で一定以上の点数をとらないと、出願すらできないということです。

進路実現ではバランスよく学力をつけることが基本であるといわれていますが、学力以外に様々な情報を得ることも重要です。ある教育関係機関では「入試情報を得ることは合否の30%に影響する」とまで言っています。ここでは英語についてはNET出願など出願の方法も大きく変わってきています。大東文化大学ではNET出願以外の出願はできません。

このように、ここ数年は大学入試を取り巻く状況は激変します。常に進路について高いアンテナを持つことが必要になってきます。豊高でもこうした変化を順次保護者の皆様、生徒諸君に提供できればと考えています。